

心に残る記念事業

豊田市中学生のためのコンサート

2023.

8月 22日 23日 24日 木 金 土

豊田市コンサートホール

with 名古屋フィルハーモニー交響楽団

主催：豊田市・豊田市教育委員会

挨拶



豊かな感性を育む音楽を

豊田市長

太田 稔彦

今年も、名古屋フィルハーモニー交響楽団を迎え、中学3年生の皆さんに、すばらしい音楽をお届けできることを大変嬉しく思います。

本ホールは、平成10年にオープンし、平成15年にはパイプオルガンを設置しました。国内外のアーティストからも、高い評価を得ています。演奏とともに、この施設の魅力にも触れていただければ幸いです。

未来を担う皆さんには、文化芸術に親しむことで豊かな感性を育んでもらいたいと願っております。そして、豊田市が文化芸術を身近に楽しめるまちであることを実感し、本市への愛情と誇りが大きく育つことを期待いたします。



本物の芸術体験を

豊田市教育委員会教育長

山本 浩司

本物の芸術に触れることにより、中学生の感受性が高まることを願って始まった「心に残る記念事業」は、今年で33回目を迎えます。

パイプオルガンの重厚かつ荘厳な音色。モーツァルト、バッハ、ブラームス等の優れた作曲家による心に響く楽曲。芸術は、時代を越えてたくさんの感動を私たちに与えてくれます。スメタナが故郷への深い愛を込めた曲「ヴルタヴァ(モルダウ)」は、本市を流れる矢作川の水音や美しい風景と重なって、皆さんの心に刻まれることでしょう。

芸術に触れることで、皆さん一人ひとりが、豊かな心と感性を一層育まれることを願っています。

演奏曲 紹介

■モーツァルト: 歌劇『フィガロの結婚』序曲

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756-1791) はオーストリアの作曲家で、「神童」と呼ばれ、幼いころから才能を発揮した天才少年でした。《フィガロの結婚》は、フランスの劇作家カロン・ド・ボーマルシェが 1784 年に書いた戯曲を題材に、モーツァルトが作曲した歌劇 (オペラ) です。

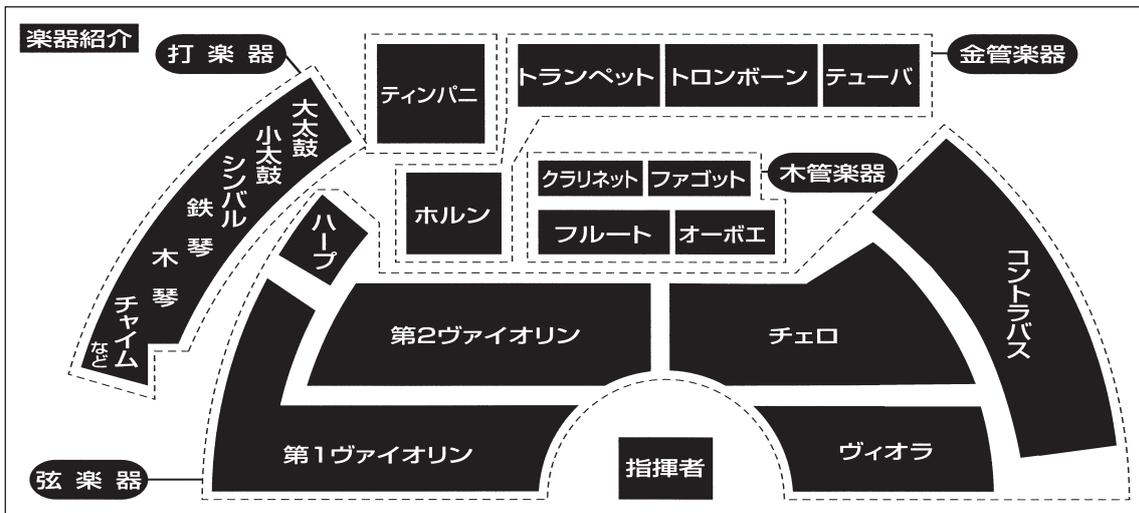
スペインの伯爵邸を舞台に、伯爵の従者となったフィガロと伯爵夫人の侍人スザンナの結婚をめぐる 1 日の騒動が描かれています。伯爵夫人や小姓ケルビーノなど個性的な登場人物が織りなす恋や親子愛が絡み合うコミカルなオペラは、今なお不動の人気を得ています。

【楽器紹介 (オーケストラ)】

■カジノユキ編曲: オーケストラで聴く日本の名曲『春夏秋冬』

舞台をご覧のとおり、オーケストラにはたくさんの楽器が使われています。皆さんはどれだけの楽器を知っているのでしょうか? この曲では、オーケストラのありとあらゆる楽器を、日本の四季を代表する名曲「早春賦」、「われは海の子」、「紅葉」、「雪」のメロディに乗せて、メドレー形式でご紹介します。

ナレーションも合わせて、目と耳の両方でお楽しみください。



名古屋フィルハーモニー交響楽団の通常の楽器配置

【楽器紹介 (オルガン)】

■バッハ: フーガト短調 BWV578 『小フーガ』

「音楽の父」ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685-1750) は、西洋音楽史上最も偉大な作曲家と言っても過言ではありません。膨大な数の作品を残し、自身も鍵盤楽器奏者として活躍しました。彼が得意とした「フーガ」という形式は、ひとつのメロディが「声部」と呼ばれる複数の音域で形を変えながら繰り返され、緻密に音楽を構築する作曲法です。《小フーガ》という愛称のあるこの曲は、4 つの声部による「4 声のフーガ」として作曲されており、冒頭のメロディは特に印象的です。

■モーツァルト：歌劇『フィガロの結婚』より「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」

伯爵の小姓である美少年ケルビーノは、蝶のようにスザンナや伯爵夫人の部屋を行き来しています。ある日、ケルビーノが伯爵夫人に恋をしているという噂が流れ、それを聞いた伯爵を怒らせてしまいます。軍隊へ行くよう命じられたケルビーノに対して、伯爵の従者フィガロは、「軍隊での生活は大変だ、さあいつてらっしゃい！」と親しみを込めてからかいます。行進曲のように勇ましいリズムと、フィガロを演じる、バス歌手＝伊藤貴之さんの独唱にご注目ください。

■成田為三 [岩本渡編]：浜辺の歌

1913年、歌人の林古溪が雑誌『音楽』に発表した歌詞（当時は「はまべ」という題名でした）に、ドイツ帰りの山田耕筰に作曲を学んでいた成田為三が曲を付けたものが、《浜辺の歌》です。楽譜が出版されるとたちまち話題となり、作曲から100年以上経った今もなお音楽の教科書に掲載されるなど、日本中で親しまれています。日本人の心に染み入るような旋律を、本日はバス歌手＝伊藤貴之さんの歌声でお楽しみください。

【指揮者体験コーナー】

■ブラームス：ハンガリー舞曲第5番

ドイツの大作曲家ヨハネス・ブラームス（1833-1897）は1853年、ハンガリー出身のヴァイオリニスト、エドゥアルト・レマーニと一緒に演奏旅行に出かけます。そこでレマーニからロマ（ジプシー）の民族音楽を教えてもらい、大きな興味を持ちました。その旋律を2台ピアノ用にまとめたのが「ハンガリー舞曲集」です。21曲の舞曲集は、ブラームス自身や様々な音楽家たちによってオーケストラ用に編曲もされており、中でも「第5番」が一番有名な楽曲です。テンポがたくさん変わる難しい曲ですが、指揮者はどのようにオーケストラに合図をしているのでしょうか？今日は指揮者＝中井章徳さんに指揮について教えてもらい、代表の方数名にオーケストラの指揮を体験していただきます！

■スメタナ：交響詩『ヴルタヴァ（モルダウ）』

ベドルジハ・スメタナ（1824-1884）は、チェコを代表する作曲家です。オーストリアの一部となっていたチェコの人々の気持ちを高める音楽をたくさん書き、“チェコ国民音楽の父”と呼ばれています。代表作である《ヴルタヴァ（モルダウ）》はチェコの大地を流れるヴルタヴァ川（ドイツ語読みではモルダウ川）の様々な表情を音楽で表しており、スメタナの故郷への愛が込められています。フルートとクラリネットによって表現される2つの小さな流れが、やがて合流して1本の大きな川となり、ここであの有名な「モルダウの主題」が演奏されます。流れは狩りの角笛や田舎の婚礼の踊り、妖精たちの踊りを眺めながら、急流にさしかかります。流れが緩やかになると、川は古いお城を横に見つつ、プラハへと流れ込むのです。

演奏者 紹介



指揮とお話 / 中井 章徳 Akitoku NAKAI

岡山県倉敷市出身。くらしき作陽大学音楽学部指揮専攻を首席で卒業。同大学大学院音楽研究科修了。桐朋オーケストラ・アカデミー、キジアーナ音楽院（伊）、京都市立芸術大学大学院博士（後期）課程で指揮を学ぶ。指揮を志賀保隆、大山平一郎、故岩城宏之、リヒャルト・シューマッヒャー、ダニエレ・アジマ、ジャンルイジ・ジェルメッティ、下野竜也、音楽学を丸山桂介、故森泰彦、池上健一郎の各氏に師事。

1998年、ポーランドで開催された第21回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクールで指揮部門最高位の名誉ディプロマ賞を受賞し、併せて全部門の中から最優秀者に贈られるマスタープレイヤーズ大賞を同時受賞。このほか倉敷市芸術文化栄誉章（2000年）、第10回エネルギー音楽賞（2004年）、出雲市市民文化（2006年）、出雲市文化功労賞（2015年）を受賞している。2010年、ミラノで歌劇「椿姫」を指揮してイタリアデビュー。

これまでに札幌交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、大阪フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団 Osaka Shion Wind Orchestra、岡山フィルハーモニック管弦楽団、広島交響楽団九州交響楽団など各地の楽団で客演指揮を務める。現在、出雲芸術アカデミー・出雲フィルハーモニック芸術監督兼常任指揮者、北九州シティオペラ客演指揮者イタリア学会会員。出雲観光大使も務めている。



オルガン / 徳岡 めぐみ Megumi TOKUOKA

東京藝術大学音楽学部オルガン科卒業、同大学院音楽研究科修了。安宅賞受賞。ドイツ国立ハンブルク音楽大学を卒業。オルガンを植田義子、廣野嗣雄、ヴォルフガング・ツェラーの各氏に師事。2001年オランダのアルクマールのシュニットガー国際オルガンコンクールで優勝、併せて聴衆者賞も獲得する。同年、ハンブルク音楽大学でDAAD賞を受賞し、受賞記念コンサートをハンブルクの聖ヤコビ教会で開催する。2002年北ドイツ放送（NDR）音楽賞国際オルガンコンクールで2位を受賞する。帰国後、国内外のコンサートホールや教会などで演奏活動を行う。近年では、能楽やプロジェクト・マッピングとのコラボレーションなど、多彩なジャンルとオルガンとの可能性を探りながら積極的な活動を行っている。

現在、豊田市コンサートホール オルガニスト、東京芸術劇場オルガニスト、東京藝術大学非常勤講師、東京音楽大学非常勤講師、片倉キリストの教会オルガニスト、国際基督教大学オルガニスト。



バス / 伊藤 貴之 Takayuki ITO

名古屋芸術大学首席卒業。同大学大学院修了。奨学金を得て渡伊しミラノで研鑽する。第41回イタリア声楽コンクールソプラノ賞受賞。第49回日伊声楽コンクール第2位や第6回Gゼッカ国際声楽コンクール第2位など入賞歴多数。留学中、イタリアにあるヴェルディ劇場にてオペラ「アイダ」にランフィスで出演しイタリアデビューする。愛知県芸術劇場「椿姫」でデビューしこれまで数多くのオペラに出演。また、ベートーベンの「第九」や、ヴェルディ、モーツァルト「レクイエム」などの宗教曲のソリストとしても活躍している。セイジオザワ松本フェスティバル「第九」ソリストに抜擢され、小澤征爾指揮の「第九」でソリストを務める。近年では、新国立劇場、日生劇場、大阪フェスティバルホール、びわ湖ホールなど全国の主要劇場に出演し活躍している。Aゼツダ指揮の

ロッシェニ「スタバト マーテル」では、バスソロで出演しNHK BSで放送された。その他に、「題名のない音楽会」やNHK FM「リサイタルノヴァ」などに出演した。24年1月「ファウスト」メフィストフェレスで出演予定。平成24年度愛知県芸術文化選奨「文化新人賞」を受賞。平成29年度豊田文化奨励賞受賞。平成28年度とよしん育英財団奨励賞受賞。藤原歌劇団団員。



名古屋フィルハーモニー交響楽団

Nagoya Philharmonic Orchestra

日本有数のオーケストラの一つとして、愛知県名古屋市を中心に東海地方の音楽界をリードし続けている。その革新的な定期演奏会のプログラムや、充実した演奏内容で広く日本中に話題を発信し、“名フィル”の愛称で地元では親しまれ、日本のプロ・オーケストラとして確固たる地位を築いている。

2023年4月より、名フィル指揮者・正指揮者を12季務めた川瀬賢太郎が音楽監督に就任。現在の指揮者陣には小泉和裕（名誉音楽監督）、小林研一郎（桂冠指揮者）、モーシェ・アツモン（名誉指揮者）、ティエリー・フィッシャー（名誉客演指揮者）が名を連ねている。また2023年4月には小出稚子が第4代コンポーザー・イン・レジデンスに就任。

楽団創立は1966年。1973年に財団法人に、2012年に公益財団法人となる。2013年に東海市、2016年に愛知県立芸術大学、2018年に豊田市と、それぞれ音楽教育の推進や文化芸術の振興を目的とした協定を締結している。

現在は、意欲的なプログラミングの「定期演奏会」をはじめ、親しみやすい「市民会館名曲シリーズ」、障がいのある方を対象とした「福祉コンサート」など、バラエティに富んだ年間約110回の演奏会に出演している。